



JSPS Stockholm News Letter

2014 Winter

Prologue

01

北欧の国 ストックホルムより

News

02

フィンランド シンポジウム・同窓会総会開催
2013年度第2回KVAセミナー開催
デンマーク Students Information Exchange・JSPS Meeting開催
Student Fair参加 / 大使館新年祝賀会参加
ミーティング記録

Reports

05

KVAセミナー / 東北大学リエゾンオフィス開所一周年行事
フィンランド環境科学合同シンポジウム2013
デンマーク Students Information Exchange 開催レポート
同窓会新メンバー紹介 / KI学長・日本国大使昼食会
ストックホルム「世界一長い美術館」

*Academic
Information*

11

2013年ノーベルウィーク / 東大十倉教授名誉博士号授与式
ルンド大入学希望者について / EuroScience Open Forum開催
リサーチカウンシル2014年助成金発表 / 北大シンポジウム
フィンランド・エストニアクラウドシステム構築
カロリンスカ医科大学ニュース

Notice

14

Gathering for returnees from Japan開催 (Finland)
セミナー・シンポジウムの開催
外国人特別研究員事業(欧米短期&一般)
カロリンスカ医科大学同窓会会員募集
JSPS Stockholm News Letter 定期購読

北欧の国 ストックホルムより ストックホルム便り

JSPSストックホルム研究連絡センター長 宮澤健夫

ストックホルムと東京との生活の違いは何かを興味深く観察しました。まず感じることは、ストックホルムの街はとても美しく清潔感があることです。私はアパートからオフィスまで歩いて通っているのですが、歩道は広くて自転車道路が整備されており、人々は背筋をまっすぐに胸を張って歩いています。歩く速度も速く、どんどん追い越されてしまいますが、スウェーデン人は背が高く足も長いので仕方ありません。また、福祉を充実させている国家だからでしょうか、街の風景の中では貧富の差をあまり感じません。経済の実態はよくわかりませんが少なくとも街の風景からは、一部のEU圏の国で見られるような疲弊感を感じられず、人々の生活に豊かさが感じられます。この国は税金が高いことで有名ですが、福祉と経済を見事に両立させているようで、日本も見習うべき点が大いにあるのではないのでしょうか。

ストックホルムの人たちの国民性は日本人によく似ている感じがします。どの場面でもゆずりあいが見られ、少し控えめで、正義感が強く、底抜けに明るくはないが奥の深い人間性を感じます。私が抱いていたバイキングの荒々しい凶暴なイメージとは全く違いました。また、女性の社会進出が日本とは比べものになりません。色々な機関や役所を訪問すると管理職の半分は女性ですし、街の色々な場面で男女同権を感じさせられます。それだけ女性の意識が高いという事でしょうか。スウェーデンでは小さい頃から英語教育が徹底していますのでほとんどの人が英語を流暢にしゃべります。ある言語学者に聞いたら、スウェーデン人の英語が一番美しいとも言っていました。街の中でもほとんどの場所で英語が通じますから生活に困ることは少ないようです。

12月に入っても今年は暖かくて5度前後の日が多く、雪が降ったのは数日で、更に積もったのは1日だけでした。冬の寒さは1月から2月が本番でしょうか。11月末からクリスマスシーズンに入り、街はイルミネーションで飾られ何となく気分がうきうきして来るのですが、12月のストックホルムは何とんでもノーベルウィークです。12月10日のノーベル賞授賞式に向けて数々のイベントが開催されます。その中で、12月7日に開催されたノーベル医学生理学賞の受賞講演を聞きました。今年は細胞内輸送のメカニズム解明に関する功績で、ジェームス・ロスマン博士、ランディ・シェクマン博士及びトマス・ズートホフ博士の3名が講演を行いました。講演は午後1時からKarolinska InstitutetのAula Mediaという鏡で外装された新築のモダンな建物で行われ、一般の人もだれでも参加できる講演会でした。会場に入ると案内係りはみな民族衣装を着て華やかな雰囲気に満ちていました。会場は1,000名以上と思われる聴衆で埋め尽くされ、若い研究者や学生の姿が目につき、皆さん熱心に講演に聞き入っていました。もちろん、受賞者のお弟子さんや共同研究者も多数出席されており、発表内容を担当された研究者達はその都度講演者から聴衆に紹介されるなど、会場全体と講演者とが一体となったすばらしい講演でした。私がここで感じたのは、ストックホルムの人々、特に若い研究者や学生は幸せだという事です。ノーベル賞という世界最高の賞が市民生活の中に日常の事として根付いているからです。ノーベル賞の存在がスウェーデンという国のイノベーション力を推進し、国民のメンタリティーを高めていると思います。日本の多くの若い研究者にはどんどんスウェーデンに来てもらい、アカデミックな雰囲気に満ちた環境で研究してほしいと思います。



Joint Symposium on Environmental Science 2013 — Bridging Finland and Japan — 環境科学合同シンポジウム2013～フィンランドと日本の架け橋～

北海道大学 森川正章

去る2013年11月27日、28日の二日間にわたり、題記シンポジウムがヘルシンキ大学ヴィーキキャンパス（市街より車で約30分）にて開催されました。まず開会の辞にあたり、篠田研次在フィンランド日本国特命全権大使、宮澤健夫JSPSストックホルム研究連絡センター所長、上田一郎北海道大学副学長、シピ・マルケッタヘルシンキ大学農学森林学部長よりご挨拶を頂きました。特に、篠田全権大使の扇子を使ったスピーチは印象的で、今回の企画がその一本の中骨となることが期待されます。本シンポジウムは世界第一位と第三位の森林大国である「フィンランドと日本をむすぶ環境科学」をキーワードとしてJSPSストックホルムセンターと北海道大学が企画したもので、第一部会：バイオテクノロジー、第二部会：森林管理と生態系サービス向上、第三部会：寒冷地の環境問題、から構成され、合計24題の講演と24+2題のポスター発表が行なわれました。2日間の延べ参加者は約100名で連日熱心な議論が交わされました。一部のグループはシンポジウム終了後も夕刻遅くまで研究室で歓待され、帰りは担当教授の車でホテルまで送迎してもらったそうです。

また、20世紀のフィンランドを代表する建築家アルヴァ・アールトが設計およびデザインした斬新なヘルシンキエネルギービル8階のレストラン”Puro”で催された晩餐会ではJSPSフィンランド同窓会メンバーも交え、ときが経つのも忘れて歓談しました。余談ですが、今回シンポジウム講演要旨が期限までに収集できず印刷出来が出发直前となり、100冊を手分けして札幌から持参した甲斐がありました。このシンポジウムを期に渡日に興味をもつヘルシンキ大学の学生やスタッフもあり、JSPS外国人特別研究員制度に関心を示していました。北海道大学ヘルシンキオフィスなども介して両国の交流が今後も継続することを切に祈っています。



2013年ノーベルウィーク

スウェーデンの科学者アルフレッド・ノーベルの命日である12月10日に、毎年ノーベル賞の授賞式が行われる。授賞式があるこの日を含む1週間は「ノーベルウィーク」と呼ばれ、受賞講演者や晩餐会といった様々な行事がノーベル財団によって催される。以下、2013年のスケジュールと行事内容を紹介する。

12月7日

13時よりカロリンスカ医科大学にて医学・生理学賞、17時半よりSwedish Academyにて文学賞のノーベルレクチャーがそれぞれ行われた。

カロリンスカ医科大学でのレクチャーは昨年完成された1,000名収容可能な“Aula Medica”の講堂にて行われたが、学内の学生などが多く聴講に訪れたため、立ったまま聴講する姿も多く見受けられるほどの盛況ぶりだった。

文学賞を受賞したAlice Munro氏はストックホルムを訪れてのレクチャーは叶わなかったが、代わりに事前に録画されたレクチャーが放映された。



12月8日

9時よりストックホルム大学にて物理学賞、化学、経済学賞のノーベルレクチャーが行われた。また19時からはコンサートホールにてノーベルコンサートが開催された。

ノーベルレクチャーは日曜日の朝という日程にもかかわらず開始前から長蛇の列ができ、盛況となった。

夜のコンサートはイタリア人指揮者Riccardo Muti氏が指揮を振った。参加者達は素晴らしい指揮とロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団の演奏を堪能した。



12月9日

終日、ヨーテボリにてノーベルウィークダイアログが開催された。“Exploring the Future of Energy”というタイトルの下、36名のパネリストが集まり、経済・環境といった様々な視点からエネルギー問題について講演、パネルディスカッションを行った。

当日の様子はオンデマンドでライブ中継され、80カ国もの人々がアクセスした。



12月10日

ノーベルWEEKの本番である10日は、16時よりコンサートホールにてノーベル賞授賞式、19時より市庁舎にてノーベル晩餐会が開催された。

授賞式及び晩餐会はテレビ中継され、受賞者へのメダル授与の様子や、華やかな晩餐会、ノーベルディナー、参加者たちのドレスを見ることができた。



Gathering for returnees from Japanの開催

フィンランド同窓会と在フィンランド日本国大使館とで同窓会員同士の懇親を深める合同会合を開催することとなりました。詳細は以下の通りです。

日 時：2014年3月27日(木)

会 場：Restaurant Tokyo55, Runeberginkatu 55, 00260 Helsinki Finland

セミナー・シンポジウムの開催

セミナー・シンポジウムの開催について随時ホームページでお知らせしておりますので、ストックホルムセンターホームページをご覧ください。

最新のインフォメーションをご希望の方はこちらからご登録ください。

<http://www.jsps-sto.com/contact.aspx>

外国人特別研究員事業(欧米短期&一般)

外国人特別研究員事業(欧米短期&一般)(JSPS Postdoctoral Fellowship Program (short-term & standard))は、諸外国の若手研究者に対し、我が国の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業です。

●現地からの推薦は締め切りましたが、引き続き2014年度に日本での研究を希望する者は本部へ申請することが可能です。

<http://www.jsps.go.jp/english/e-fellow/index.html>

カロリンスカ医科大学同窓会 会員募集

KIでは過去、現在問わず、カロリンスカに在籍されていた方々のためにKI Alumni & Friendsを設立し、様々なイベントの企画、メールマガジンによる情報提供、を行っています。KIにいらした事のある方でご関心がある場合には是非以下ホームページをご覧ください。

<https://www.network.alumni.ki.se/portal/public/Default.aspx>

JSPS Stockholm News Letterの定期購読について

ニュースレターの定期購読(電子メールにて配信します)をご希望される場合は、機関名、部署、氏名及びメールアドレスを明記の上、jsps-sto@jsps-sto.comまでご連絡ください。

JSPS Stockholm News Letter 第41号

作成・編集:吉澤 菜穂美 二上 佐和江

発行日:2013年3月26日

発行元:日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター

連絡先:JSPS Stockholm Office、Retzius väg 3、171-65 Solna、Sweden

Phone: +46 (0) 8 5248 4561 FAX: +46 (0) 8 31 38 86

Website: <http://www.jsps-sto.com/> E-mail: jsps-sto@jsps-sto.com